

聖徳大学大学院通信教育課程 共学

# 児童学研究科 博士前期課程 博士後期課程

---

令和7年度

春学期入学

秋学期入学

## 学生募集要項

— 目次 —

- 3つのポリシー ……………01ページ～
- 博士前期課程 ……………03ページ～
- 博士後期課程 ……………09ページ～
- 参考資料(博士前期課程) ……13ページ～
- 参考資料(博士後期課程) ……17ページ



聖徳大学大学院通信教育課程 共学

# 聖徳大学大学院 3つのポリシー

## ディプロマ・ポリシー／カリキュラム・ポリシー／アドミッション・ポリシー

聖徳大学大学院では、学則に定める教育目的を果たすため、教学経営の基本方針となる学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)の3つの方針を、次のとおり定めています。

### 聖徳大学大学院 修士課程・博士前期課程

#### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

聖徳大学大学院は、1933年に創立された東京聖徳学園の建学の精神である「和」を教育理念としています。本学大学院は、この理念を社会に創造的に活かしながら、多彩な総合的かつ学際的な教育・研究体制を構築し、時代に求められるより高度な専門的職業人と研究者の養成を行い、斯界に有意な人材を多数輩出しています。

大学院をとりまく現代社会は、極めて早い速度で進行する個人・社会・自然に関わる価値観の多様化・複雑化にともない、予想もしなかった変化に直面しています。それ故に、文化・社会・自然及びこれらと人間自身との関係についてのこれまでの概念を転換し、人間の尊厳、生命に対する新たな認識と価値を創造する人材の養成が求められています。

聖徳大学大学院修士課程・博士前期課程は、我が国最初となる児童学研究科を中心に6研究科から構成され、如上の現代社会の要請に応える教育・研究体制を整え、高度な実践的な指導力を備える専門家と学術研究を担う研究者の養成を行っています。とくに、児童学研究科では、我が国で最初の設置となる通信制大学院において、すでに教職に就いている人材をはじめ多様な社会人に対して学習の途を開き、修士の学位を多数授与する実績を積んでいます。

聖徳大学大学院修士課程・博士前期課程は、上記の基本認識に基づいて、以下の教育目標を掲げています。

##### 【教育目標】

1. 基礎的な学術研究能力とともに新たな認識と価値を創造できる専門性に優れた研究能力を育成する。
2. 現実社会の問題・課題について具体的な実践の場から要請される高度な専門的解決力を育成する。

こうした教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

##### 【学修成果】

1. 専門能力を高度に研磨し質の高い創造的な研究を進めることができる。
  2. 実際に生起している問題・課題の対応について実践的観点から開発的研究を進めることができる。
- 聖徳大学大学院では、以上の学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、修了を認定し、修士の学位を授与します。

#### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

聖徳大学大学院では、各研究科の学修成果を体系的に達成するために、それぞれの独自な共通科目と専門教育科目を設定し、以下の方針に基づいて教育課程を編成しています。

1. 共通科目としての「研究法論」等、専門関連科目の「特論」等を設定し、基礎的な学術研究能力とともに、学際的な知見と洞察力を育成します。
2. 多様な選択科目の「特論」等を設定し、高度な実践力と問題・課題解決力を育成します。
3. 修士研究の成果を具体化するために実習・演習科目群を設定し、修士論文及び課題研究を作成する実力を育成します。

#### 入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

聖徳大学大学院は、基礎的な学術研究能力とともに新たな認識と価値を創造できる専門性に優れた研究能力を備えた人材と現実社会の問題・課題について具体的な実践の場から要請される高度な専門的解決力を備えた人材を育成することをめざしています。

聖徳大学大学院はこうした目的を理解し、それを達成できる資質をもった人を求めています。

1. 専門領域における明確な課題ないし目的意識、及び研究に対する熱意を有している人。
2. 主体的かつ協働的に研究に取り組むことができる人。
3. 高度専門職業人ないし研究者として社会及び学界で活躍したい強い意思を有する人。

聖徳大学大学院ではこのような人を受け入れるために、学部卒業相当と認められる学力試験を含め、実技試験、口述試験、面接を実施し、研究能力を多様な角度から総合的に判断します。

### 聖徳大学大学院 博士後期課程

#### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

聖徳大学大学院は、1933年に創立された東京聖徳学園の建学の精神である「和」を教育理念としています。本学大学院は、この理念を社会に創造的に活かしながら、多彩な総合的かつ学際的な教育・研究体制を構築し、時代に求められるより高度な専門的職業人と研究者の養成を行い、斯界に有意な人材を多数輩出しています。

大学院をとりまく現代社会は、極めて早い速度で進行する個人・社会・自然に関わる価値観の多様化・複雑化にともない、予想もしなかった変化に直面しています。それ故に、文化・社会・自然及びこれらと人間自身との関係についてのこれまでの概念を転換し、かつ人間の尊厳、生命に対する新たな認識と価値を創造する学術研究者の養成が求められています。

聖徳大学大学院博士後期課程は、我が国最初となる児童学研究科を中心に5研究科から構成され、如上の現代社会の要請に応える教育・研究体制を整え、高度な学術研究を担う研究者の養成を行っています。とくに、児童学研究科では、我が国で最初の設置となる通信制大学院博士後期課程において、高等教育機関の教員を含めた多様な社会人に対して博士の学位を多数授与する実績を積むとともに、教職大学院を修了した人材に対しても学習の途を開いています。

聖徳大学大学院博士後期課程は、上記の基本認識に基づいて、以下の教育目標を掲げています。

##### 【教育目標】

1. 質の高い研究手法を駆使して新たな認識と価値を創造できる専門性に優れた研究能力を育成する。
2. 学会で研究活動を展開し、内外の高等教育機関及び研究機関などで活躍できる研究能力を育成する。

こうした教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

##### 【学修成果】

1. 専門能力を高度に研磨し質の高い創造的な研究を進めることができる。
  2. 研究を計画的に進め、その成果を学術誌で公表し、併せて学会でのプレゼンテーション・ディスカッションができる。
- 聖徳大学大学院では、以上の学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、修了を認定し、博士の学位を授与します。

#### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

聖徳大学大学院博士後期課程では、各研究科の学修成果を体系的に達成するために、次のように「特殊研究」や「特別研究」科目を編成・実施しています。

1. 独立した研究者に必要な高度な知見に基づく洞察力と分析力を育成します。
2. 博士研究を遂行できる学術研究能力を育成します。

#### 入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

聖徳大学大学院博士後期課程は、独立した研究者として内外の高等教育機関及び研究機関で活躍できる人材を育成することを目指しています。

こうした目的を理解し、それを達成できる資質をもった人を求めています。

1. 博士前期課程ないし修士課程において高度な専門知識をすでに身につけた人。
2. 主体的かつ協働的に研究に取り組むことができる人。
3. 研究者として高等教育機関及び研究機関などで活躍したい強い意思を有する人。

聖徳大学大学院博士後期課程ではこのような人を受け入れるために、博士前期課程ないし修士課程修了相当と認められる学力試験を含め、実技試験、口述試験、面接を実施し、研究能力を多様な角度から総合的に判断します。

# 児童学研究科 博士前期課程 通信教育課程

## 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

児童学研究科博士前期課程は、児童学に関する我が国最初の修士学位を授与する研究科として、多くの研究者と高度専門職業人を輩出してきました。現代社会は、従来の保育・教育等に関わる大学院の対象・専門領域のみでは解決できない多様な課題を抱えています。例えば、保育・学校における校種間連携、社会教育における他職種間連携など、発達段階（乳児期・幼児期・児童期・青年期等）や専門領域（保育学、児童教育学、児童心理学、児童福祉・保健学、児童文化学）ごとに研究者を養成してきた従来の大学院研究科では対応が困難となりました。

そこで、本研究科では、児童の発達の連続性、継続性を踏まえ、教育・発達領域における児童期の捉え方を広げ、乳児から青年までを研究対象とすることによって、下記のような人材を養成し社会の発展に貢献します。

1. 従来の児童期に関する専門領域のみでは解決できない新たな課題についての研究能力を備えた研究者と、現実社会で実際に課題解決を図れる高度専門職業人（実践研究者）を養成します。
2. 児童に関する多様な課題に対応するため、従来の児童研究の枠組みと異なる「児童学」の立場から研究や実践を行うことができる人材を養成します。また、多様な視点から児童を捉える能力を養成するため、児童に関する多様な専門領域の体系的知識と課題解決能力を修得した人材を養成します。

上記の内容を具体化するために以下の教育目標を設定します。

### 【教育目標】

1. 児童研究に携わる者としての要素となる倫理性、人間性、及び基礎となる研究能力を育成する。
2. 児童研究に携わる者としての要素となる思考力・活用力を育成する。
3. 児童学に関する専門領域の体系的知識を活用して課題解決を図る研究能力と汎用力を育成する。
4. 児童学の研究者・高度専門職業人（実践研究者）として必要な総合的実践力を育成する。

上記1～4の教育目標に基づき、以下のような学修成果を設定します。

### 【学修成果】

1. 児童研究に携わる者として必要な倫理性と人間性を育成するなかで、児童に対する多様な価値を受容し、多角的視点で児童をとらえることができる。
2. 研究倫理を遵守して児童研究を進めることができる。
3. 自己を客観的に分析し論理的に思考を展開できる。
4. 児童について多角的に分析し、その視点に基づき多領域に活用できる。
5. 児童学のそれぞれの領域で修得した知識や技能を活用して汎用的に問題解決できる。
6. 児童学のそれぞれの領域で必要とされる知識をもち研究につなぐことができる。
7. 児童学の研究者・高度専門職業人（実践研究者）として自立して新しい課題を解決できる。
8. 児童学の研究者・高度専門職業人（実践研究者）として協働して新しい課題を解決できる。

以上のような学修成果を期待し編成された教育課程を履修し、修了した人に修士（児童学）の学位を授与します。

## 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

児童学研究科博士前期課程の教育目標に基づいた学修成果を達成するために以下の点を重視した教育課程を編成・実施します。

### 【教育課程編成の方針】

1. 児童学の基礎を広く学ぶとともに、児童学を研究するための心構えと方法を学ぶための「研究基礎力科目」を設置します。
2. 児童学の知識や技能を身につけるために用いる思考力、活用力、汎用力を深めるための「研究力科目」を設置します。
3. 児童学の知識や技能を活用して課題を解決できるようにするための「汎用力科目」を設置します。

### 【教育課程実施の方針】

1. 「研究基礎力科目」では、例えば「基礎論」において児童学5領域（保育学、児童教育学、児童心理学、児童福祉・保健学、児童文化学）の概念や研究法の基礎を修得します。また「児童発達学特論 (I)」において児童心理学領域の研究内容の理解と基本概念を修得します。
2. 「研究力科目」では、例えば「児童学研究法特論 (I) (II)」において児童学の最先端の研究を理解し、それを踏まえた最新の研究を進める能力を修得します。
3. 「汎用力科目」では、例えば「児童発達評価演習」において児童心理学領域で修得した知識や技能を活用して児童発達の評価ができる能力を修得します。

## 入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

児童学研究科博士前期課程は、児童学の研究に携わる者としての倫理性、思考力、及び研究能力を備えた人を求めています。具体的には以下のような入学者を求めています。

1. 児童に対する広く深い関心を持ち、理解したいという意欲を持っている人。
2. 児童に関する問題に取り組む積極性と専門性を身につけようとする強い意志を持っている人。
3. 児童学研究を推進する上で必要な追従心や社会性を備えている人。

以上の観点から書類審査、学力試験（小論文）、口述試験を通して判断します。

# 児童学研究科 博士後期課程 通信教育課程

## 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

児童学研究科博士後期課程は、児童学に関する我が国最初の博士學位を授与する研究科として、多くの研究者と高度専門職業人を輩出してきました。現代社会は、従来の保育・教育等に関わる大学院の対象・専門領域のみでは解決できない多様な課題を抱えています。例えば、保育・学校における校種間連携、社会教育における他職種間連携など、発達段階（乳児期・幼児期・児童期・青年期等）や研究領域（児童教育学、児童発達学、保育学等）ごとに研究者を養成してきた従来の大学院研究科では対応が困難となりました。

そこで、本研究科では、児童の発達の連続性、継続性を踏まえ、教育・発達領域における児童期の捉え方を広げ、乳児から青年までを研究対象とすることによって、下記のような人材を養成し、社会の発展に貢献します。

1. 児童学分野において、自立した活動を行うのに必要な深い知識・理解と分析力を備えた研究者と高度専門職業人（実践研究者）を養成します。
2. 児童学に関する新しい課題を解決できる優れた研究能力を有し、現在の研究水準を超える研究成果を生み出すことのできる人材を養成します。

上記の内容を具体化するために、以下の教育目標を設定します。

### 【教育目標】

1. 児童研究に携わる者としての要素となる倫理性・人間性を基盤として、新たな課題に取り組む力を育成する。
2. 児童研究に必要な深い知識・理解と分析力により新たな課題を解決する力を育成する。
3. 課題解決の結果を、優れた研究成果として学術論文で公表する力を育成する。
4. 研究成果を現実社会で実践し、検証する力を育成する。

上記1～4の教育目標に基づき、以下のような学修成果を設定します。

### 【学修成果】

1. 児童研究に携わる者として必要な倫理性、人間性を基盤として、児童に対する多様な価値を受容し、多角的視点で児童をとらえた課題設定ができる。
2. 研究倫理を遵守して児童研究を進めることができる。
3. 既存の児童研究の成果を客観的・多角的に分析することができる。
4. 既存の研究の課題を踏まえ、新たな課題とその解決方法を示すことができる。
5. 新たな課題を、深い知識・理解と分析力により解決することができる。
6. 研究成果を学会で発表し、学術雑誌に掲載することができる。
7. 研究成果を現実社会において実践し、検証するとともに、新たな課題を設定できる。

以上のような学修成果を期待し編成された教育課程を履修し、修了した人に博士（児童学）の学位を授与します。

## 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

児童学研究科博士後期課程の教育目標に基づいた学修成果を達成するために、以下の点を重視した教育課程を編成・実施します。

### 【教育課程編成の方針】

児童学領域の深い知識・深い理解と分析力を修得するとともに、児童学を研究するための心構えと方法を修得します。具体的には八つの特殊研究（児童教育学、児童発達学、保育学、児童保健学、児童福祉学、児童文化学、保育マネジメント、教科内容学）のうち二つ以上を履修することにより、それぞれの研究に必要な深い知識・理解と分析力を修得します。

### 【教育課程実施の方針】

1. 児童学領域の分析方法を理解し、新しい課題の解決ができるよう指導を行います。具体的には、博士後期課程担当教員のもとで指導を行います。その成果をもとに、児童学研究所紀要や児童学関連学会での発表と学術雑誌への投稿・掲載を行いながら、中間発表、最終発表会を経て、博士論文を作成します。
2. 高度専門職業人の博士論文作成にあたっては、研究成果を現実の社会において実践し、検証できるよう指導を行います。

## 入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

児童学研究科博士後期課程は、児童学の研究に携わる者としての倫理性、思考力、及び研究能力を備えた人を求めています。具体的には以下のような入学者を求めています。

1. 博士前期課程（修士課程）において児童学に関する研究主題を持っている人。
2. 児童に関する問題に取り組む積極性と専門性を身につけようとする意欲と資質を備えている人。
3. 児童学研究を推進する上で必要な追従心や社会性を備えている人。

以上の観点から学力試験（外国語、基礎科目、専門科目）、口述試験を通して判断します。

# 博士前期課程 通信教育課程

## 1. 募集人員

50名(男女) ※募集人員は春学期および秋学期入学を合わせた人数です。

## 2. 入学の時期

4月1日および10月1日

## 3. 修業年限

修業年限は2年間(最長在学年数は5年、ただし休学期間は在学年数に算入されません)

## 4. 学位授与

課程修了者に対しては、次の学位を授与します。

修士(児童学)

## 5. 専修免許状の取得

幼稚園教諭、小学校教諭の一種免許状を有し、教育職員免許法に定める所定の要件を満たした方は、幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状を取得することができます。

## 6. 学校心理士(受験資格)

児童学研究科児童学専攻 博士前期課程では「学校心理士」の受験資格が取得できます。

大学院在学中(修了見込み)で次の3要件を全て満たしている方が該当します。

- (1) 学校心理学に関する所定の領域に属する科目のうち、領域1~8のうち5つの領域(学校心理学、教授・学習心理学、発達心理学、臨床心理学の4領域が含まれていることが望ましい)において、各1科目以上(計10単位以上)を申請時まで修得済みであること。
- (2) 大学院修了までに残りの科目の単位修得が予定されていること。
- (3) 大学院入学後、1年以上の学校心理学に関する専門的実務経験を行っている、もしくは大学院修了までにその実務経験が1年以上に達する見込みであること。なお、教員等の経験がある場合には、申請時直近5年以内をその実務経験として充てることができる。

※専門的実務経験については、一般社団法人学校心理士認定運営機構・日本学校心理士会に要確認のこと。

**学校心理士**…学校生活におけるさまざまな問題について、カウンセリングなどによる子どもへの直接的援助を行うとともに、子どもを取り巻く保護者や教師、学校に対しても「学校心理学」の専門的知識と技能をもって、心理教育的援助サービスを行うことを目的としています。

学校心理士は日本教育心理学会等11の学会が運営母体となる学会連合資格「学校心理士」認定運営機構が資格認定を行っています。

(注意) 本研究科は臨床心理士、公認心理師の指定大学院ではありません。

## 7. 出願資格

下記の要件のいずれかに該当する方

- (1) 大学を卒業した方、または令和7年3月(秋学期入学を志願する方は、令和7年9月)までに卒業見込みの方
- (2) 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された方
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了し学士に相当する学位を授与された方
- (4) 文部科学大臣の指定した方(昭和28年文部省告示第5号)

(教育職員免許法(昭和24年法律第147号)による小学校、中学校、高等学校若しくは幼稚園の教諭若しくは養護教諭の専修免許状又は一種免許状を有する方で、入学年度4月1日現在22歳に達した方)

- (5) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得した者と認められた方

出願様式は下記より  
ダウンロードしてください。



<https://tk.seitoku-u.ac.jp/>  
(通信教育部ホームページ▶デジタルパンフレット)

※提出は手書きでもパソコン打ちしたものでどちらでも構いません。  
※ご自身でプリントアウトができない方は印刷した様式を送付しますので、大学事務部(裏表紙参照)に出願締切の10日前までにご連絡ください。

- (6)本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した方と同等以上の学力があると認めただ方で、入学年度4月1日現在22歳に達した方  
 (短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校を卒業した方や、外国大学日本分校等を修了した方など大学卒業資格を有していない方で、本学において審査の結果、大学を卒業した方と同等以上の学力があると認めただ方で、入学年度4月1日現在22歳に達した方)  
**(注意) 出願資格(6)にて受験希望の場合には事前に入学資格審査を行います。詳細は9をご覧ください。**

### 二重学籍の禁止

下記に該当する方は正科生として入学することはできません。  
 ・学校教育法第1条に定める高等専門学校、短期大学（専攻科を含む）、大学、大学院に在籍している方  
 ・文部科学大臣の指定する教員養成機関等に在籍している方  
 ※科目等履修生は二重学籍にはなりません。

## 8. 入試日程

区分		出願期間	入試日	合否発表	手続期限
春学期 入学	A日程	1月20日(月)～2月3日(月)	2月9日(日)	2月13日(木)	2月27日(木)
	B日程	2月10日(月)～2月22日(土)	3月2日(日)	3月6日(木)	3月22日(土)
秋学期 入学	A日程	7月7日(月)～7月22日(火)	7月27日(日)	7月31日(木)	8月15日(金)
	B日程	8月4日(月)～8月18日(月)	8月24日(日)	8月28日(木)	9月8日(月)

## 9. 入学資格審査について

児童学研究科児童学専攻 博士前期課程では、「大学を卒業した方と同等以上の学力があると認めただ方」として入学資格認定を必要とする方について、入学資格審査を行います。下記③の書類を提出してください。

### (1)入学資格審査の対象

短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校を卒業した方や、外国大学日本分校等を修了した方など大学卒業資格を有していない方で、入学年度4月1日現在22歳に達した方

### (2)入学資格審査の日程

区分		出願期間	入学資格審査	審査結果の通知
春学期 入学	A日程	11月5日(火)～11月15日(金)	11月18日(月)～12月5日(木)	12月12日(木)
	B日程	11月18日(月)～12月13日(金)	12月16日(月)～1月15日(水)	1月27日(月)
秋学期 入学	A日程	4月14日(月)～4月25日(金)	4月26日(土)～5月15日(木)	5月30日(金)
	B日程	5月19日(月)～6月6日(金)	6月7日(土)～6月19日(木)	7月11日(金)

※審査にて認定された方は、出願資格が得られます。

### (3)提出書類

下記「様式」は出願を検討されている方のみ送付します。大学事務部（裏表紙参照）に出願締切の10日前までにご連絡ください。

- ①入学資格審査願書（様式4）
- ②履歴書（様式5）
- ③学習歴等調書（様式6）
- ④学習歴、研究歴を証明する書類（コピー可）
- ⑤卒業・修了証明書（短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校等のもの）
- ⑥成績証明書（短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校等のもの）

※⑤、⑥については発行より3ヵ月以内の証明書を提出してください。

※証明書類に記載の氏名と現在の氏名が異なる方は、戸籍抄本を提出してください。

#### (4)書類送付先

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 聖徳大学5号館2階 聖徳大学大学院通信教育事務部 入試係宛

※窓口で出願される場合は、大学院通信教育事務部に持参してください。

事務部は、聖徳大学5号館2階になります。(松戸駅東口徒歩5分)

取扱い時間 平日9:00~17:00 土曜日9:00~15:00

#### (5)審査方法

書類審査・面接(資格審査期間中に実施。面接日程は個別に連絡。)により児童学研究科で審査を行い、本学大学院委員会が認定の可否を決定します。

#### (6)結果通知

審査結果は、通知日に郵便(簡易書留速達)にて発送します。

※審査結果の電話による問合せには一切応じません。

入学資格審査にて認定された方は、8. 入試日程の出願期間内に書類を提出のうえ、入学試験を受験してください。

## 10. 試験会場 聖徳大学松戸キャンパス(千葉県松戸市)

## 11. 出願手続

### (1)入学検定料 35,000円

下記「様式」はデータにてご用意しておりますので、3頁記載のQRコード等よりダウンロードしてご記入ください。

### (2)出願書類

#### ①入学志願票(様式1)

※志望の領域に○印を必ず付してください。また、出願後の変更はできません。

#### ②受験票(385円分の切手貼付)、振込受付証明書(データ上の本学所定用紙)

#### ③調査書(大学卒業見込みまたは大学を卒業して2年未満の場合のみ、様式2)

#### ④研究計画書(様式3)

#### ⑤卒業証明書、または卒業見込証明書(出身大学所定のもの)

※短期大学等から大学に編入学した方は、短期大学等の卒業証明書も必要

※大学改革支援・学位授与機構へ申請をした方は、学位授与証明書あるいは学位記(写)、または学位授与申請受理書(大学改革支援・学位授与機構発行)

#### ⑥成績証明書(出身大学所定のもの)

※短期大学等から大学に編入学した方は、短期大学等の成績証明書も必要

#### ⑦写真1枚(3ヵ月以内に撮影したもの、縦4cm×横3cm、正面上半身、脱帽、背景無地)入学志願票に貼付のこと

#### ⑧(教育職員免許状を取得している方のみ)教育職員免許状の写し

#### ⑨(外国籍の方のみ)国籍、在留資格、在留期間が記載されている住民票の写しまたは、外国人登録原票記載事項証明書

#### ⑩(希望者のみ)長期履修学生申請書(様式7)

※⑤⑥について日本語以外の言語の証明書については、原本と日本語訳の両方を提出してください。日本語訳については、翻訳者の氏名・所属機関・住所・電話番号・作成日を記入してください。

※証明書は、3ヵ月以内に発行されたものに限りです。

※証明書類に記載の氏名と現在の氏名が異なる方は、戸籍抄本を提出してください。

### (3)書類送付先

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 聖徳大学5号館2階 聖徳大学大学院通信教育事務部 入試係宛

※窓口で出願される場合は、大学院通信教育事務部に持参してください。

事務部は、聖徳大学5号館2階になります。(松戸駅東口徒歩5分)

取扱い時間 平日9:00~17:00 土曜日9:00~15:00

<出願上の注意>

- ①検定料（35,000円）は、様式同様データにあります、本学所定の振込用紙を使用して、最寄の銀行（または信用金庫）で電信扱いで振込んでください。振込後、振込受付証明書（大学提出）は出願書類と一緒に提出してください。振込金領収書（本人保管）は本人が保管してください。
- ②出願書類は、様式同様データにあります本学所定の宛名ラベルを市販の角2封筒に貼付して、**受付期間内に必着するよう書留で郵送するか、直接、本学通信教育事務部窓口**に提出してください。
- ③**一度納入された検定料および出願書類は、いかなる理由があっても返却いたしません。**

- 身体に障がい有する志願者について  
身体に障がいのある志願者で、受験上特別な措置および修学上特別な配慮を必要とする方は、**出願前に通信教育事務部**へ連絡し、診断書等を持参のうえご相談ください。
- 日本国籍でない方の入学について  
本学では日本語の教材を用いた学習、日本語によるスクーリング授業以外は開講していません。  
また、在留資格（留学ビザ）は通信教育課程では取得できません。
- 海外の大学を卒業している方について  
出願される前にあらかじめ本学に連絡を入れた後、日本語訳の添えられた卒業証明書、成績証明書と今までの学歴の記録（小学校からの入学・卒業年月日）の提出をお願いいたします。
- 海外に在住している方について  
本学からの書類の送付先は、全て国内に限ります。したがって国内に住所を所有していることが必要となります。

12. 選考方法 書類審査（研究計画書を含む）、小論文、口述試験

13. 試験時間

小論文	口述試験
9：30～10：45(75分)	11：00～

14. 試験内容

小論文のテーマ…「児童学」に関するものを出题します。  
口述試験……………「研究計画」を中心に研究への意欲や将来性について試問します。

<受験に関する注意事項>

- ①試験当日は受験票、筆記用具（鉛筆またはシャープペン）を用意し、試験開始時刻の30分前までに試験場に入場してください。試験場へは試験開始時刻の1時間前から入場できます。
- ②試験開始時刻後30分以内の遅刻に限り受験を認めます。
- ③試験日には時計を持参してください。

15. 合否通知

- (1)合否結果は、発表日に郵便（簡易書留速達）にて発送します。（掲示による発表は行いません）
- (2)判定結果の電話による問合せには一切応じません。
- (3)本学では、電報による合否通知は、一切取り扱っておりません。

16. 入学手続方法

- (1)合格者は、大学が指定した期日までに「納付金等」を銀行振込（本学指定用紙を使用）し、入学手続きに必要な書類（誓約書、健康診断書など）を郵送または直接本学に持参して手続きを完了してください。
- (2)期限内に上記の入学手続きをとらなかった場合は、入学許可を取り消します。

## ・入学辞退に伴う入学手続納付金（入学金以外）の返還について

入学手続完了後に入学を辞退し、入学手続納付金（入学金以外）の返還を希望される場合は、下記の手順で申し出を行ってください。

- ①「納付金返還願」に必要事項を記入のうえ、納付金返還手続期限までに持参または郵送してください。
- ②納付金返還手続期限  
春学期入学…令和7年3月21日（金） 秋学期入学…令和7年9月19日（金）  
※郵送の場合は必着です。
- ③返還方法は「納付金返還願」に基づいて、学内の返還手続完了後、入学金以外の納付金から振込手数料を差し引いた金額を指定の銀行口座に振込みます。

## 17. 納付金（令和6年度実績）

(1)学費

(単位：円)

納入時期	入学金	授業料	施設費	教育充実費	計
入学時	220,000	315,000	50,000	50,000	635,000
1年次後期	—	315,000	50,000	50,000	415,000
2年次前期	—	315,000	50,000	50,000	415,000
2年次後期	—	315,000	50,000	50,000	415,000

※3年次以降は在籍料415,000円（年額）となります。

※上記金額には、スクーリング受講料、科目終了試験受験料が含まれています。

※上記記載の授業料・施設費・教育充実費等の納付金の金額は、物価の高騰や賃金の水準の上昇等の状況に鑑みて、金額を改定する場合がありますので、その旨あらかじめご了承ください。

(2)その他

- ①学生教育研究災害傷害保険料…2年分140円（入学手続き時）
- ②同窓会費（終身会費・連合同窓会費含む）…10,000円（入学手続き時）  
※ただし、同窓会費について本学通信教育部卒業生は必要ありません。

## 18. 「長期履修学生」制度について

「長期履修学生」制度とは、職業を有する方などが個人の学習環境やキャリアプランに基づき、あらかじめ修業年限を選択し申し出ることにより、その年限（3年、4年、5年）で履修し、学位を取得する制度です。納付金の負担も軽減されます。

(1)対象者

**出願の際に、本制度を利用した就学を希望することを申し出た方。**

**※出願後の申し出は出来ませんのでご注意ください。**

(2)長期履修の期間と納付金

下記の3通りになります。

- ①3年コース（2.5年での修了を含む）
- ②4年コース（3.5年での修了を含む）
- ③5年コース（4.5年での修了を含む）

長期履修学生制度を利用した場合の納付金

長期履修期間	入学金	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次	4年次	5年次	合計
3年コース	220,000	347,000	349,000	349,000	349,000	349,000			1,963,000
4年コース	220,000	301,000	305,000	305,000	305,000	305,000	305,000		2,046,000
5年コース	220,000	271,000	273,000	273,000	273,000	273,000	273,000	273,000	2,129,000

※3年コース、4年コース終了後に継続を希望する場合の納付金は、年額415,000円です。

長期履修学生制度を利用しない場合の納付金

修了に要した年数	入学金	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次	4年次	5年次	合計
2年（修業年限）	220,000	415,000	415,000	415,000	415,000				1,880,000
3年	220,000	415,000	415,000	415,000	415,000	415,000			2,295,000
4年	220,000	415,000	415,000	415,000	415,000	415,000	415,000		2,710,000
5年	220,000	415,000	415,000	415,000	415,000	415,000	415,000	415,000	3,125,000

(3)申請手続

「長期履修学生」制度の適用を希望する方は、**出願時に**「長期履修学生申請書（様式7）」をご提出ください。

(4)注意事項

①長期履修学生は、1回に限り履修期間を変更することができます。（2年での修了はできません。）

変更を希望する方は、長期履修期間変更申請書（入学後に配付されます『履修と研究の手引』にあります。）に主指導教員の意見を添えて下記の期間までに申請してください。

- ・履修期間を延長する場合は、修了予定の7ヵ月前までに
- ・履修期間を短縮する場合は、修了希望の7ヵ月前までに

長期履修学生の期間変更申請に対しては、研究科委員会で協議のうえ、大学院委員会の審議を経て、学長が可否を決定します。変更を許可された方は、納付金の差額を納入いただきます。在学年数により納付金を算出していますので、短縮する場合は、修了するまでに繰り上げ分に係る納付金総額の差額の納入が必要です。

②長期履修期間中の休学はできません。

## 19. 内部進学者の入学金優遇制度について

聖徳大学（通学課程および通信教育課程）からの内部進学者で、入学時点で卒業から1年未満（卒業見込みを含む）の方は、入学金の2分の1（11万円）が免除されます。

## 20. 個人情報の保護について

提出された願書等の個人情報については、個人情報保護に関する法律（平成15年5月30日法律第57号）に基づき、入試業務、入学手続き業務および修学全般に関わる業務に利用いたします。

なお、上記以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて本人の同意をいただきます。

## 21. その他

■入学許可後であっても入学資格および入学願書に虚偽があった場合は、入学許可を取り消すことがあります。

# 博士後期課程 通信教育課程

## 1. 募集人員

5名(男女) ※募集人員は春学期および秋学期入学を合わせた人数です。

## 2. 入学の時期

4月1日および10月1日

## 3. 修業年限

修業年限は3年間(最長在学年数は6年、ただし休学期間は在学年数に算入されません)

## 4. 学位授与

課程修了者に対しては、次の学位を授与します。

博士(児童学)

## 5. 出願資格

### <一般入試>

下記の要件のいずれかに該当する方

- (1)修士の学位や専門職学位を有する方、もしくは令和7年3月(秋学期入学を志願する方は令和7年9月)までに取得見込みの方
- (2)外国において、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された方
- (3)文部科学大臣の指定した方
- (4)本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位や専門職学位を有する方と同等以上の学力があると認められた方で、入学年度4月1日現在24歳に達した方

### <社会人入試>

上記(1)~(3)のいずれかに該当した後、**官公庁、学校、企業等の現職(ただし、大学等で専ら研究に従事する者を除く)**に3年以上(春学期入学を志願する方は令和7年4月1日現在、秋学期入学を志願する方は令和7年10月1日現在)ある方

3年未満の方は、職場の長(所属長)の推薦書、又は修了した大学院の修士論文指導教員等の推薦書を提出できる方

### <出願上の注意>

※博士後期課程を希望の方は、出願前に本学から入学後の論文指導について内諾を得るとともに、出願内諾書(様式10)を提出する必要があります。

本学教員と直接関わりのない方は、下記書類を本学通信教育事務部に提出し、論文指導教員がいるか否かの事前確認を行う必要があります。提出は、郵便、宅配便、窓口いずれかの方法でお願いします。提出先は、次頁の8. 出願手続③書類送付先と同一です。

なお、提出書類には本学指定の様式はございません。データにある様式(上記QRコード等よりご確認ください。)を使用していただいても構いませんが、正式に本学へ出願するときに再度提出が必要となりますことをご承知おき願います。

1. 履歴書

2. 研究業績書

3. 修士論文(写し)

4. 本学博士後期課程での研究計画書

※論文指導教員がいるかの確認にあたっては、本学教員との面談を実施します。面談実施の際には、出願内諾書(様式10)を持参してください。

## 二重学籍の禁止

下記に該当する方は正科生として入学することはできません。

- ・学校教育法第1条に定める高等専門学校、短期大学(専攻科を含む)、大学、大学院に在籍している方
- ・文部科学大臣の指定する教員養成機関等に在籍している方

※科目等履修生は二重学籍にはなりません。

出願様式は下記より  
ダウンロードしてください。



<https://tk.seitoku-u.ac.jp/>  
(通信教育部ホームページ▶デジタルパンフレット)

※提出は手書きでもパソコン打ちしたものでどちらでも構いません。  
※ご自身でプリントアウトができない方は印刷した様式を送付しますので、大学事務部(裏表紙参照)に出願締切の10日前までにご連絡ください。

## 6. 入試日程

区分	出願期間	入試日	合否発表	手続期限
春学期入学	1月7日(火)～2月3日(月)	2月9日(日)	2月13日(木)	2月27日(木)
秋学期入学	7月11日(金)～8月11日(祝・月)	8月24日(日)	8月28日(木)	9月8日(月)

## 7. 試験会場 聖徳大学松戸キャンパス (千葉県松戸市)

## 8. 出願手続

(1)入学検定料 35,000円

(2)出願書類

下記「様式」はデータにてご用意しておりますので、9頁記載のQRコード等よりダウンロードしてご記入ください。

①入学志願票 (様式8)

※志望の領域に○印を必ず付してください。また、出願後の変更はできません。

②受験票 (385円分の切手貼付)、振込受付証明書 (データ上の本学所定用紙)

③修士課程または博士前期課程の修了証明書または修了見込証明書

※外国において修士の学位またはこれに相当する学位を得た方はその証明書およびその日本語訳

④修士課程または博士前期課程の成績証明書

※外国において正規の教育課程による18年の学校教育を修了した方はその成績証明書およびその日本語訳

⑤写真1枚 (3ヵ月以内に撮影したもの、縦4cm×横3cm、正面上半身、脱帽、背景無地) 入学志願票に貼付のこと

⑥研究計画書 (様式3)

⑦修士論文 (写し) および修士論文概要書 (様式9)

※修士論文を提出せずに修士の学位を得た方、または修士の学位を有しない方は、その学力を証明する研究論文あるいは研究報告書を提出すること

⑧その他の研究業績一覧 (様式任意)

⑨出願内諾書 (様式10)

出願前に本学教員より入学後の論文指導について内諾を得た際に、出願内諾書に署名をもらい提出すること

⑩ (該当者のみ) 推薦書 (様式11)

勤務経験が3年未満の方は、職場の長 (所属長) の推薦書、または修了した大学院の修士論文指導教員等の推薦書 (様式11) を提出してください。社会人入試として受験いただくことが可能です。

⑪ (外国籍の方のみ) 国籍、在留資格、在留期間が記載されている住民票の写しまたは、外国人登録原票記載事項証明書

※③④について日本語以外の言語の証明書については、原本と日本語訳の両方を提出してください。日本語訳については、翻訳者の氏名・所属機関・住所・電話番号・作成日を記入してください。

※証明書は、3ヵ月以内に発行されたものに限りです。

※証明書類に記載の氏名と現在の氏名が異なる方は、戸籍抄本を提出してください。

(3)書類送付先

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 聖徳大学5号館2階 聖徳大学大学院通信教育事務部 入試係宛

※窓口で出願される場合は、大学院通信教育事務部に持参してください。

事務部は、聖徳大学5号館2階になります。(松戸駅東口徒歩5分)

取扱い時間 平日9:00～17:00 土曜日9:00～15:00

<出願上の注意>

①検定料 (35,000円) は、様式同様データにあります、本学所定の振込用紙を使用して、最寄の銀行 (または信用金庫) で電信扱いで振込んでください。振込後、振込受付証明書 (大学提出) は出願書類とともに提出してください。振込金領収書 (本人保管) は本人が保管してください。

②出願書類は、様式同様データにあります本学所定の宛名ラベルを市販の角2封筒に貼付して、**受付期間内に必着**するよう書留で郵送するか、直接、本学通信教育事務部窓口へ提出してください。

③一度納入された検定料および出願書類は、いかなる理由があっても返却いたしません。

- 身体に障がいの有する志願者について  
身体に障がいのある志願者で、受験上特別な措置および修学上特別な配慮を必要とする方は、**出願前に**通信教育事務部へ連絡し、診断書等を持参のうえご相談ください。
- 日本国籍でない方の入学について  
本学では日本語の教材を用いた学習、日本語によるスクーリング授業以外は開講しておりません。  
また、在留資格（留学ビザ）は通信教育課程では取得できません。
- 海外の大学院を修了している方について  
出願される前にあらかじめ本学に連絡を入れた後、日本語訳の添えられた修了証明書、成績証明書と今までの学歴の記録（小学校からの入学・修了年月日）の提出をお願いいたします。
- 海外に在住している方について  
本学からの書類の送付先は、全て国内に限ります。したがって、国内に住所を所有していることが必要となります。

## 9. 選考方法

- (1) **一般入試**…書類審査、外国語（辞書持込可、電子辞書は不可）、専門科目、口述試験
  - (2) **社会人入試**…書類審査、専門科目、口述試験
- ※外国語は英語、フランス語、ドイツ語のうち、出願時に1科目選択

## 10. 試験時間

入試方法	外国語	専門科目	口述試験
一般入試	9：15～10：30（75分）	10：45～12：00（75分）	13：00～
社会人入試	—	10：45～12：00（75分）	13：00～

※昼食は各自ご用意（ご持参）ください。

## 11. 試験内容

### <一般入試>

**外国語**…児童学に関する「教育」（教科内容学を含む）、「発達」、「保健」、「福祉」、「文化」、「保育」（保育マネジメントを含む）の中から研究領域に関する問題に解答します（出願時に選択）。（英語、フランス語、ドイツ語のうち、出願時に1科目選択。辞書持込可、電子辞書は不可）

**専門科目**…研究領域に関する問題を出題します（出願時に選択）。

**口述試験**…「研究計画」を中心に研究への意欲や将来性について試問します。

### <社会人入試>

**専門科目**…研究領域に関する問題を出願します（出願時に選択）。なお、問題には語学的試験要素を含むことがあります。

**口述試験**…「研究計画」にある課題に基づくプレゼンテーション（15分程度）及び質疑を行います。

### <受験に関する注意事項>

- ①試験当日は受験票、筆記用具（鉛筆またはシャープペン）を用意し、試験開始30分前までに試験場に入場してください。試験場へは試験開始の1時間前から入場できます。
- ②試験開始後30分以内の遅刻に限り受験を認めます。
- ③試験日には時計、昼食を持参してください。

## 12. 合否通知

- (1)合否結果は、発表日に郵便（簡易書留速達）にて発送します。（掲示による発表は行いません）
- (2)判定結果の電話による問合せには一切応じません。
- (3)本学では、電報による合否通知は、一切取り扱っておりません。

### 13. 入学手続方法

- (1)合格者は、大学が指定した期日までに「納付金等」を銀行振込（本学指定用紙を使用）し、入学手続に必要な書類（誓約書、健康診断書など）を郵送または直接本学に持参して手続きを完了してください。
- (2)期限内に上記の入学手続きをとらなかった場合は、入学許可を取り消します。

#### ・入学辞退に伴う入学手続納付金（入学金以外）の返還について

入学手続完了後に入学を辞退し、入学手続納付金（入学金以外）の返還を希望される場合は、下記の手順で申し出を行ってください。

- ①「納付金返還願」に必要事項を記入のうえ、納付金返還手続期限までに持参または郵送してください。
- ②納付金返還手続期限  
 春学期入学…令和7年3月21日（金） 秋学期入学…令和7年9月19日（金）  
 ※郵送の場合は必着です。
- ③返還方法は「納付金返還願」に基づいて、学内の返還手続き完了後、入学金以外の納付金から振込手数料を差し引いた金額を指定の銀行口座に振込みます。

### 14. 納付金（令和6年度実績）

(1)学費

(単位：円)

納入時期	入学金	授業料	施設費	教育充実費	計
入学時	220,000	315,000	50,000	50,000	635,000
1年次後期	—	315,000	50,000	50,000	415,000
2年次前期	—	315,000	50,000	50,000	415,000
2年次後期	—	315,000	50,000	50,000	415,000
3年次前期	—	315,000	50,000	50,000	415,000
3年次後期	—	315,000	50,000	50,000	415,000

※4年次以降は在籍料415,000円（年額）となります。

※上記記載の授業料・施設費・教育充実費等の納付金の金額は、物価の高騰や賃金の水準の上昇等の状況に鑑みて、金額を改定する場合がありますので、その旨あらかじめご了承ください。

(2)その他

- ①学生教育研究災害傷害保険料…3年分140円（入学手続き時）
- ②同窓会費（終身会費・連合同窓会費含む）…10,000円（入学手続き時）  
 ※ただし、同窓会費について本学通信教育部卒業生（修了生）は必要ありません。

### 15. 内部進学者の入学金優遇制度について

聖徳大学大学院博士前期課程（通学課程および通信教育課程）からの内部進学者で、入学時点で修了から1年未満（修了見込みを含む）の方は、入学金（22万円）が全額免除されます。

### 16. 個人情報保護について

提出された願書等の個人情報については、個人情報保護に関する法律（平成15年5月30日法律第57号）に基づき、入試業務、入学手続き業務および修学全般に関わる業務に利用いたします。

なお、上記以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて本人の同意をいただきます。

### 17. その他

入学許可後であっても入学資格および入学願書に虚偽があった場合は、入学許可を取り消すことがあります。

# 開設科目の概要 (令和7年度)

※変更となる場合があります。

「保育学」、「児童教育学」、「児童心理学」、「児童福祉・保健学」、「児童文化学」の5領域の科目に、共通科目と関連科目を組み合わせた編成となっています。修了に際しては(1)「必修科目」4単位(2)「選択必修科目」から「主領域」の基礎論を含む6単位以上(3)「主領域」から8単位以上(4)「他の4領域」と「関連科目」から計12単位以上、合計30単位以上の修得が必要です。

領域	共通科目 (必修)							保育学 (選択)			児童教育学 (選択)			児童心理学 (選択)			児童福祉・保健学 (選択)		児童文化学 (選択)		関連科目 (選択)															
	必修	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2							
科目	課題研究(修士論文)	保育学基礎論	児童教育学基礎論	児童心理学基礎論	児童福祉・保健学基礎論	児童学研究法特論(Ⅰ)	児童学研究法特論(Ⅱ)	保育史特論	乳幼児発達心理学演習	家庭教育特論	育児相談特論	障害児保育特論	保育課程特論	幼児教育学特論	児童教育社会学演習	比較児童教育学特論	生涯学習特論	生徒指導・進路指導	児童発達学特論(Ⅰ)	児童発達学特論(Ⅱ)	児童発達学特論(Ⅲ)	児童発達学特論(Ⅳ)	地域福祉学特論	児童福祉学特論	児童栄養学特論	児童保健学演習	児童文化学特論	児童音楽特論	保育表現特論	保育表現特講	児童臨床教育学演習	障害児心理学特論	学校心理学特論	学校カウンセリング	臨床心理学特論	
単位	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
通信	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
面接	○					○	○	○	○									○																		
幼専免		※						※	※	※		※	※	※	※	※	※	※	※	※	※				※											
小専免		※													※	※	※	※	※	※	※				※	※										
心学修士校																	※	※	※	※	※															

- ◎「幼稚園教諭専修免許状」を取得する者は、幼専免欄に※印を付された科目より24単位以上を修得すること。
- ◎「小学校教諭専修免許状」を取得する者は、小専免欄に※印を付された科目より24単位以上を修得すること。
- ◎「学校心理士(受験資格)」を取得する者は、学校心理士欄に※印を付された科目全てを修得すること。(要実務1年)

共通科目	共通科目	共通科目
<p><b>[ 課題研究(修士論文) ]</b></p> <p>各学生が自分の研究課題をみつけて、これを修士論文として完成させるため、1年次から個別指導が始まる。指導教員の決定と同時に開始され、通信による助言・指導の他、Microsoft Teams を利用したオンラインや大学に来校しての個別指導を受ける。また、1年次の末に「修士論文構想発表会」が、2年次の中頃には「修士論文中間発表会」が実施され、集団指導の形態で直接の指導を受ける。</p>	<p><b>[ 基礎論 ]</b></p> <p>児童学はその性格上きわめて幅広い内容・領域を含むため、本学では、「児童学」を保育学、児童教育学、児童心理学、児童福祉・保健学、児童文化学の5領域とした。「基礎論」では5領域それぞれの領域名を冠した科目として開講し、各領域の基礎となる内容と研究方法を取り上げる。学生は各領域の「基礎論」等7科目から3科目以上を選択必修とし、児童学を構成する内容・領域と研究方法の特性、相違、関係を理解し、学生の研究主領域の位置づけの確認と今後の学習・研究の展望を図ることをねらいとしている。</p>	<p><b>[ 児童学研究法特論(Ⅰ) ]</b></p> <p>修士論文研究において、アンケート調査等で量的データを収集する予定の方は必須の科目。統計データ解析の主要な方法を学び、修士論文研究で活用できるようにします。統計データ解析の主要な方法(ノンパラメトリック法、実験計画法、多変量解析法)の意味と用途を理解し、研究の目的とデータの状況に応じてその中から適切な方法を選択し、実施する。また解析結果を正しく解釈し、表現することができることを目標とする。</p>
<p><b>[ 児童学研究法特論(Ⅱ) ]</b></p> <p>実践での種々の現象を質的な研究方法を用いて探求することの重要性と楽しさを体験する。質的研究法の一つである修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて、理論特性、手順プロセス、分析テーマと分析焦点者、データの範囲と収集法、解釈プロセス、概念とカテゴリーの生成、継続的比較分析を学び、分析の要点を理解する。</p>	<p><b>[ 保育史特論 ]</b></p> <p>J. デューイの教育に関する代表的著作『学校と社会』『民主主義と教育』『経験と教育』を柱として、彼の教育思想とその発展について考察する。 現在の幼稚園教育は「環境を通して行う」ことを基本としているが、この「環境」をはじめ「経験」「興味と訓練」「活動的作業」「衝動・習慣・知性」など幼児教育理論において重要な基本概念を再考することを目的に考察を進める。</p>	<p><b>[ 保育社会学演習 ]</b></p> <p>家庭、地域社会、園、情報・消費環境などの子どもの社会化環境を見ると、境界解体的変化が進行している。それに伴い、就学前教育や保育は大きく変化している。本演習では、子どもの社会化の過程と現状を踏まえ、その問題点を理解し、保育者や大人たちにながることができるかを考えていく。スクーリングでは、日頃の保育実践を社会的に考察するために理論的・実践的な論文を取り上げて、討論を行う。</p>
<p><b>[ 乳幼児発達心理学演習 ]</b></p> <p>保育学を研究する上で乳幼児の発達に関する研究はかなりのウェイトを占めている。そのことを念頭において、乳幼児期の子どもの発達の变化に伴う心理学的特性の理解や母子関係その他の環境を巡る発達臨床的問題に関する理解を深めてもらう。そして乳幼児が健全に育つことを願っての子育て支援のための発達心理学的アプローチのあり方について、理論と事例研究を交えて探りたい。</p>	<p><b>[ 家庭教育特論 ]</b></p> <p>近年、わが国では、犯罪の低年齢化、不登校、学級崩壊と称される学校の荒廃化といった子どもを取り巻くさまざまな現象を背景に、「家庭教育」という一つの社会的現象のあり方に関心が高まってきている。なぜ、子どもたちの姿(行動)が問題とされると家庭教育のあり方が問われるのか。家庭教育をめぐる政策や議論の歴史から、この問いに対する答えを各自が導き出し、これからの家庭教育を展望する視座を培っていく。</p>	<p><b>[ 育児相談特論 ]</b></p> <p>最近、育児に悩む親が増えていることが懸念されている。子育てに対する不安は、親子関係を歪ませ、子どもたちの成長に影響を及ぼすばかりか、幼児虐待などにもつながっていると言われている。 そこで、子育ての不安の実情や背景、家庭の変化、子どもたちの変化を捉えて、子どもたちの成長・親の子育てを支援していく方法としての育児支援事業、幼稚園や保育所の役割、保育者の役割を考えていく。</p>

[ 参考資料 ]

Guidelines for Applicants

<p style="text-align: center;">保育学</p> <p style="text-align: center;">〔 保育課程特論 〕</p> <p>今日、家庭、地域社会の教育機能が低下し、社会生活における望ましい習慣や態度、自発性、豊かな感情、物事に対する興味や関心、表現力等といった幼児期の人間形成の基礎を培うための体験の機会と場の確保が重要な課題となっている。 本講では、集団教育施設の場において用意されるべき発達に必要な体験としての保育内容について、人生の各時期に果たすべき特有の課題を踏まえながら考察を進める。</p>	<p style="text-align: center;">保育学</p> <p style="text-align: center;">〔 障害児保育特論 〕</p> <p>特別な保育ニーズのある乳幼児に対する早期発見、早期支援の体制について学び、これらの現代的問題への理解を深める。また、保育の現場における発達評価や園内支援体制を含めた支援方法、保護者の支援や小学校との接続の現状と課題について把握し、これらの課題について広く考察できる力を養う。</p>	<p style="text-align: center;">児童教育学</p> <p style="text-align: center;">〔 幼児教育学特論 〕</p> <p>乳幼児期の教育を、現場の実際面から離れないようにするために、幼児教育学全般についての学習を、対象とする。特に子ども達を取り巻く環境は急変し、優れた専門性を有する保育者の養成が急務である。したがって、ここで論ずる内容は、幼児教育に関する教育目標、教育計画、保育室での指導、またそのための教育素材の準備等多岐にわたる。しかし、その保育室での教育は、最終的には幼稚園や、保育所の人間関係そして経営にも影響を及ぼすことを念頭においている。また、現実の幼児は家庭や地域において生活しているので、それらにも触れる。</p>
<p style="text-align: center;">児童教育学</p> <p style="text-align: center;">〔 児童教育史特論 〕</p> <p>児童観が歴史的にどのような変遷をたどったのか、いかなる観点が「観」形成の中心となっていたのか、さらに教育に関わる制度の歴史が教育観の発展にいかなる意味をもったのか。ここでは、主として子どもが大人に対して固有の価値を認められる存在になる近代以降の時期を対象にして、とくに公教育の発展をふまえながら、教育における子どもの位置づけを検討することを通して教育の可能性について考える。</p>	<p style="text-align: center;">児童教育学</p> <p style="text-align: center;">〔 児童教育社会学演習 〕</p> <p>社会の近代・現代化は社会構造を根本的に変化させ、日常的な家族形態や家族関係、子どもの生活環境や仲間関係、さらには学校教育の在り方を大きく変えてきた。この社会現実の意味を明確にするために、ここでは、社会変化と関連させて児童、学校および教員に関する問題を捉え、その主要な問題点をとりあげるとともに、その結果、子どもの生活世界や生活意識が現実にとどのように変容しているか、その実態を明らかにして検討する。</p>	<p style="text-align: center;">児童教育学</p> <p style="text-align: center;">〔 比較児童教育学特論 〕</p> <p>「比較児童教育学特論」は、文化と伝統の異なる諸外国において教育体制がどのようにして生まれ、変遷して来たかを相互に比較考察することによって、異文化間、あるいは国家間の教育現象の共通点と相違点を明らかにする。 また、日本と諸外国との教育、研究、交流の望ましい在り方を考究する。</p>
<p style="text-align: center;">児童教育学</p> <p style="text-align: center;">〔 生涯学習特論 〕</p> <p>生涯学習は、家庭教育・学校教育・社会教育すべてに関わる「人間形成」の基本的な学習である。21世紀の日本は、少子高齢社会の中、子どもから高齢者が生涯に渡って学び続ける事が求められる社会に急激に変化して来ている。特に、戦後生まれの団塊の世代（800万人）が65歳以上の人口に突入、全人口に占める高齢者の割合は、29.1%で世界一となった。子どもから高齢者まで生涯に渡り①自己を磨き②生活の豊かさ③職業能力開発が3本柱の生涯学習に対する理解を深めることを目標とする。</p>	<p style="text-align: center;">児童教育学</p> <p style="text-align: center;">〔 生徒指導・進路指導 〕</p> <p>学校における生徒指導・進路指導について、全般的に取り上げる。生徒指導は、児童・生徒の自己実現の基盤を形成するものであり、個々の社会的な適応上の課題の解決を援助する教育活動である。個と集団の両面から児童・生徒の健全な成長発達を促すために、教師が携えていなくてはならない理論と方法について学習することを通して、児童・生徒への援助者としての役割を具現化できるように学んでいただきたい。</p>	<p style="text-align: center;">児童教育学</p> <p style="text-align: center;">〔 生徒指導・進路指導演習 〕</p> <p>生徒指導・進路指導の学習の意義は、実践として表れることにある。具体的な指導場面において、指導する者には、状況の的確な把握及び背景についての洞察と児童・生徒の心理の理解に基づいた介入を具現化することが求められる。スクーリングでは、指導場面を通じた実践的な方法について、多面的に学ぶ。事例検討及びカウンセリングの技法を取り入れた体験的な学習とする。</p>
<p style="text-align: center;">児童心理学</p> <p style="text-align: center;">〔 児童発達学特論（Ⅰ） 〕</p> <p>乳幼児期から児童期の子どもを対象として、子どもの心理学的特性とその発達の変化に関する理解を深めていく。特に子どもの知的発達、社会的認知や言語の発達を中心に考究する。また親や保育者の意識・認識と養育・保育行動の相互関連性を分析し、保育者側のそれらの諸要因と子どもの発達との関連を検討する。それにより保育行動の意味づけに対する理解を深め、保育の在り方を今日的課題の中で研究していく。</p>	<p style="text-align: center;">児童心理学</p> <p style="text-align: center;">〔 児童発達学特論（Ⅱ） 〕</p> <p>前思春期から青年前期・中期にあたる児童・生徒を対象にその発達の特徴を捉え、青年が抱える問題の心理的・社会的背景を明らかにしながら青年理解の方途を探る。 青年期の問題は、青年を取り巻く社会（家族・学校・メディア等）との関係の中で理解する必要がある。自己意識・対人関係・社会参加に関わる問題を通して具体的な様相を考察し、青年期固有の問題について論究を深めていく。</p>	<p style="text-align: center;">児童心理学</p> <p style="text-align: center;">〔 発達臨床学演習 〕</p> <p>成人が個体としての独立性・自立性を備えた存在として捉えられるのに対し、臨床発達心理学においては、対象者は環境との相互作用を通して成長する存在であるとの視点（生態学的視点）、またリスク因子も相互作用により形成され変容するとの視点が強調される。本科目では、まず発達臨床心理学の、各発達段階の特徴と環境の特徴を学ぶ。その後、子どもを対象とした各種心理検査を実施し、それらの実施法、解釈法、結果のまとめ方の修得を目指す。</p>
<p style="text-align: center;">児童心理学</p> <p style="text-align: center;">〔 児童発達評価論 〕</p> <p>テキストによる学習を通して、①一般的な教育評価についての重要事項（絶対評価と相対評価、形成的評価と総括的評価、個人内評価など）、②学級・学校のアセスメントについての重要事項（学級風土や学級の居心地のよさなど）、③特別なニーズのある児童生徒のアセスメントについての重要事項（WISC-IV等による認知面のアセスメント、KABC-II等による認知や学力のアセスメントなど）を修得する。</p>	<p style="text-align: center;">児童心理学</p> <p style="text-align: center;">〔 児童発達評価演習 〕</p> <p>個別心理検査の実施法、解釈法を学び、また、実施した検査結果の解釈に基づき、指導案や指導計画を作成するための演習を行う。本科目では、まず、主に学習面や行動面に困難を示す、小・中・高校の児童生徒の心理教育的アセスメントの方法の概要を知り、すぐれたケースレポートを読むことで、検査結果の解釈法から指導法につなげるための基本的な知識を学ぶ。その後、検査の実施・解釈の実習を行う。</p>	<p style="text-align: center;">児童福祉・保健学</p> <p style="text-align: center;">〔 地域福祉学特論 〕</p> <p>福祉コミュニティについての理論的検討を行い、乳幼児から高齢者まで、地域社会の全住民がそれぞれのライフサイクルで直面する社会生活上のハンディに対する適切な援助と予防、社会参加の権利を保障する地域福祉社会（福祉コミュニティ）形成のための諸活動を学ぶ。とくに社会福祉関係諸機関を中心としたフォーマルな援助システムとボランティアなどのインフォーマルな援助システムを具体的に検討し、福祉コミュニティの在り方を考察する。</p>

児童福祉・保健学

〔 児童生理学特論 〕

子どもはどのように成長発達するかを、4つの段階から考える。1. 胎児期：細胞期を経て、胎芽期にどのように胎児は分化してゆくか。2. 新生児期から幼児期早期まで(三つ子の魂百まで)(自律性の獲得) 3. 幼児期後期から学童まで(高次脳機能の発達)(積極性・自発性の獲得)：思いやり、協調性、自発性などはどのようにして発達してゆくか。4. 学童期から思春期(生産性・勤勉性の獲得)：子どもはいつから大人の世界に興味を抱くのか。

〔 児童栄養学特論 〕

子どもの食事は、発育の為に必要な栄養素の摂取のみならず、基本的な生活習慣の確立、社会性の獲得に基づく人間関係の養成など、成人とは異なる意義と役割があることを理解することが肝要である。まず基礎として、小児栄養学の基礎について学ぶ。ついで母乳栄養の利点、人工栄養の現状、離乳の意義と進め方、幼児の食行動の発達、子どもの間食の役割、学童・思春期の食生活の問題点、集団給食の役割について理解する。

〔 児童保健学演習 〕

日本の子どもが直面している健康問題が何であるかを把握し、それぞれについてヘルスプロモーションの立場から「現状および問題点」と「課題および提案」を理解する。またそれを基に、自分自身の研究課題を考えることができるヘルスリテラシーの力を獲得する。

児童文化学

〔 児童文化学特論 〕

児童が享受する文化は、さまざまな新しく生まれるメディアによって媒介されるものが多く、彼らの生み出す文化も、それらによって増幅され彩られる。メディアと児童文化の相互関連性ととも、過去から未来へと変容することを踏まえて、児童文化および児童文化財の今日的課題について考究する。

〔 児童音楽特論 〕

文化は、伝え受け継いでいく面と、創造し再生していく面とを併せもつ。乳幼児から児童のいわば“子ども時代の文化環境”について、音楽を機軸として捉え、その変化を様々な面から探求していく。具体的には、保育の場での実践を基に子どもの表現活動の持つ意味を探る事例研究と、「リズム」のもつ意味や「教育法」等の時代的变化をみる文献研究の双方を通して、豊かな音楽環境が子どもに与える影響について考察する。

〔 保育表現特講 〕

まずは、保育における「子どもと表現活動の関わり」について発達過程に則して研究をしてもらう。次に、それを受けて内外の文献を基に表現の意義・内容・方法・評価などについて理論的な考察を行う。また、考察を単に理論的なものだけに終始させず、実践的な経験としても活かせるようにするために、保育の実践現場における表現活動について多様な手段を用いて考究する。

児童文化学

〔 保育表現演習 〕

保育表現における子どもの活動について、実践的な場での表現の目標・内容・方法・評価等に関して、理論的・実践的な研究を行うことで、演習を通して実践者としての感性を洗練させるとともに、表現のアイデア開発を行う。あわせて、保育の実践現場等における表現活動の状況について分析・考察等を行い、保育表現の理論や実践について経験的に把握することを目指す。

〔 児童臨床教育学演習 〕

援助が必要な子ども達(いじめ・不登校など問題を抱える子ども、情緒的な問題を抱える子ども、発達障害のある子ども等)が、どのような問題を抱えているかを学習する。その子どもにどのような援助が必要なのかを具体的に考える。スクーリングは事例検討会の形式で行い、参加者は自身の体験例を通して、問題の捉え方、考え方、具体的な援助方法を学習することが本講の目標となる。  
※学校心理士受験時のケースレポートに対応。

〔 障害児心理学特論 〕

特別支援教育の体制について学び、特別支援学校や小・中学校の特別支援学級および通常学級に在籍する発達障害のある児童・生徒に対する実態把握や支援体制について理解を深める。また、発達障害のある児童・生徒の障害特性を理解し、支援方法の基本を学び、学校現場における事例の支援を検討できる基礎を養う。

関連科目

〔 教育心理学特論 〕

教育現場での具体的な問題に即した教育心理学の知識や考え方を理解し、これに基づいて効果的な学習(保育)指導について考える。この視点から、まず、教育心理学の基本的な知識である学習と記憶のメカニズム、問題解決や知識の獲得について学習し、次いで、動機づけ、学習指導法、教科(知識)の構造化、指導技術、教師と子どもとの関係や学級集団等について、授業や保育場面に当てはめて考える。

〔 学校心理学特論 〕

一人ひとりの子どもを対象とした心理教育的援助サービスの理論と実践の体系である「学校心理学」について、アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション、コーディネーションに焦点をあてて、その方法について学ぶ。また、現代の子どもがもつ学校生活での問題とその援助について検討する。

〔 学校カウンセリング 〕

学校という特有な場面で起きている心理的な問題について、学校カウンセリングの視点から理解を深める。学校における援助活動は問題を抱えた児童生徒ばかりではなく、在籍するすべての児童生徒の援助を視野にいれている。そのために、学校カウンセリングの基本的な考え方を学び、援助の目標、対応、プロセスについて検討していく。

関連科目

〔 学校カウンセリング演習 〕

将来学級や適応指導教室などで活かせるように、学校で役立つカウンセリングの4つの理論を学習する。スクーリングでは具体的な事例からロールプレイングを行い、体験を通して、学校カウンセリングに必要な様々な技法を学び、実際の面接で実践できるようにする。ロールプレイング演習を通して体験を行い、学校カウンセリングの事例を中心に、実践で使えるカウンセリング技法を学ぶ。

〔 臨床心理学特論 〕

他の心理学領域と比較しながら特に学校で役立つ臨床心理学の特徴を理解する。次いで臨床心理学の理論、臨床心理学の方法、臨床心理学の対象を解説する。特に幼児・児童・生徒の問題にアプローチするためにはどのような臨床心理学的アセスメントがあり、どのように使用するかの理解を求め、最後に認知行動療法やプレイセラピーなど具体的な治療法についても解説する。

[ 参考資料 ]

Guidelines for Applicants

科目終了試験日程（令和6年度実績）

科目終了試験日	試験時間	レポート締切日	受験申込期間	受験科目確定日	試験結果発表日
5月12日(日)	9:00~	3月15日(金)	4月1日(月) ~ 4月12日(金)	4月26日(金)	6月10日(月)
6月16日(日)	9:00~	4月19日(金)	5月6日(月・祝) ~ 5月17日(金)	5月31日(金)	7月15日(月・祝)
7月21日(日)	9:00~	5月24日(金)	6月10日(月) ~ 6月21日(金)	7月5日(金)	8月19日(月)
8月18日(日)	9:00~	6月21日(金)	7月8日(月) ~ 7月19日(金)	8月2日(金)	9月16日(月・祝)
9月22日(日)	9:00~	7月26日(金)	8月12日(月・祝) ~ 8月23日(金)	9月6日(金)	10月21日(月)
10月27日(日)	9:00~	8月30日(金)	9月16日(月・祝) ~ 9月27日(金)	9月6日(金)	11月25日(月)
12月1日(日)	9:00~	10月11日(金)	10月21日(月) ~ 11月1日(金)	11月15日(金)	1月6日(月)
1月12日(日)	9:00~	11月8日(金)	11月25日(月) ~ 12月6日(金)	12月20日(金)	2月10日(月)
2月9日(日)	9:00~	12月13日(金)	12月23日(月) ~ 1月10日(金)	1月24日(金)	3月10日(月)
3月9日(日)	9:00~	1月10日(金)	1月27日(月) ~ 2月7日(金)	2月21日(金)	4月7日(月)

締切りはすべて消印でなく必着です。

※令和6年度入学生の第1回科目終了試験は、春学期（4月）入学生は6月16日（日）、秋学期（10月）入学生は12月1日（日）からとなります。

※科目終了試験は連続する日程で同一科目を申込みすることはできません（欠席の場合も不可）。

※卒業に係る科目の科目終了試験受験期限は、以下の試験日までとなります。

令和6年9月卒業は7月21日（日）の試験まで、令和7年3月卒業は1月12日（日）の試験まで。

※Web科目終了試験申込みS-kipについては、上記受付開始日0:00~受付締切日23:59までとなります。

※郵便は予想以上に日数がかかる場合がありますので、余裕をもって投函してください。

パソコン・インターネット環境について

ご入学をご検討の皆様におきましては、ご自宅等にオンライン受講・受験ができる学習環境（パソコン・インターネット環境※）を事前にご準備いただきますようお願いいたします。



※ご準備いただきたいパソコン・インターネット環境

※「Microsoft Teamsのハードウェア要件」を満たしたパソコン（マイク・カメラ・スピーカー機能を備えたもの。スマホ・タブレットは不可。上記QRコードより詳細が確認できます。）

※プリンタ

※インターネット環境（通信速度10M以上、WiFi環境を推奨。受講・受験に関するインターネット通信費は学生負担となります。）

スクーリング日程 ※課題研究(修士論文)以外のスクーリング科目は、全て選択科目です。

2期スクーリング(令和6年度実績)

19 金	児童教育社会学演習(1日目)
20 土	保育社会学演習
21 日	
22 月	
23 火	児童教育社会学演習(2日目)
24 水	児童発達評価演習☆
25 木	
26 金	児童臨床教育学演習(1日目)
27 土	児童学研究法特論(Ⅰ)☆
28 日	
29 月	
30 火	
31 水	発達臨床学演習☆
1 木	
2 金	児童学研究法特論(Ⅱ)(1日目)
3 土	
4 日	
5 月	乳幼児発達心理学演習
6 火	
7 水	児童臨床教育学演習(2日目)
8 木	生徒指導・進路指導演習
9 金	
10 土	学校カウンセリング演習
11 日	
12 月	
13 火	
14 水	
15 木	
16 金	
17 土	
18 日	
19 月	保育表現演習☆
20 火	児童学研究法特論(Ⅱ)(2日目)
21 水	
22 木	児童保健学演習
23 金	

3期スクーリング(令和6年度予定)

11月 30 土	児童学研究法特論(Ⅰ)☆
12月 1 日	

4期スクーリング(令和6年度予定)

1 土	保育社会学演習
2 日	
3 月	児童保健学演習
4 火	
5 水	
6 木	児童学研究法特論(Ⅱ)(1日目)
7 金	
8 土	
9 日	学校カウンセリング演習
10 月	
11 火	
12 水	
13 木	
14 金	発達臨床学演習☆
15 土	
16 日	
17 月	生徒指導・進路指導演習
18 火	
19 水	児童臨床教育学演習(1日目)
20 木	児童学研究法特論(Ⅱ)(2日目)
21 金	児童臨床教育学演習(2日目)
22 土	児童発達評価演習☆
23 日	
24 月	
1 土	
2 日	
3 月	乳幼児発達心理学演習(1日目)
4 火	保育表現演習☆
5 水	
6 木	乳幼児発達心理学演習(2日目)

※スクーリングは、1科目2日間(9:00~16:10)での授業を基本としています。

※開講方法：☆印科目は松戸キャンパスでの対面開講、その他の科目はオンラインにて開講(令和7年度実績・開講方法は変更となる場合があります。)

※スクーリングは、指定のレポート締切日までに提出したレポート第1課題が合格していることを受講条件とします。

※変更となる場合があります。

選択した研究領域の科目と、それ以外の科目より1科目以上の計2科目8単位以上が必修となっています。(1科目は4単位です。)

1科目につき、レポートを4課題提出・合格することにより単位を修得します。

研究領域

## 児童教育学特殊研究

児童教育学研究の課題の一つは、実際の個々の子どもの具体的な活動を、相互行為論に基づきながら、その活動の過程と構造を質的に解明することにある。この特殊研究では、相互行為論としてコミュニケーション的行為論、そして質的研究法としてデータから理論仮説を生成する精度の高い Grounded Theory Approach を修得することを主眼におき、実践研究を目指す学位論文作成に資するような指導を行う。

研究領域

## 児童発達学特殊研究

児童期から青年期にある子どもの発達研究、および子どもと関わる親や教師に関する発達心理学・教育心理学研究の理解を深める。それを踏まえ、発達心理学や言語心理学を中心とした教育心理学、および読書・読書指導の心理学的検討を軸に学位論文の作成に資する力量を養う。

研究領域

## 保育学特殊研究

保育という営みは、幼児が養育者に依存しながら、自らの自立を獲得していく過程で、幼児に対して必要かつ十分な援助をする行為であり、特に施設保育の場合、集団を対象とするところから、「援助」を成立させるには、幼児(群)の生活過程、集団的關係、モノとの関係において、十分な理解が前提にある。この幼児理解の特色を踏まえ、理解を深めることを目的として課題研究を行う。

関連領域

## 児童保健学特殊研究

子どもの成長発達において、精神と身体が統合されるのは一つの達成と考えられるが、様々な要因によって妨げられ、結果的に多彩な障害が引き起こされる。生理学、病態学的観点に基づき、健全な発育を推進するための保健学的方法論を追究し、学位論文に資するよう指導を行う。

関連領域

## 児童福祉学特殊研究

子どもの福祉問題を解決するためには、問題解決の鍵をにぎる地域社会を分析、評価する視点を実践活動を通して地域社会と関連づけながら把握しておくことが必要である。さらに、地域にねざした援助活動の方法論を理解することも必要である。社会学を中心とするコミュニティ理論の研究と地域社会への専門的接近方法としてのコミュニティワーク理論、地域福祉計画論、社会計画論などの研究を中心にして、学位論文の作成に資するような指導を行う。

関連領域

## 児童文化学特殊研究

児童文化学構築のための基礎的研究として、日本文化、比較文化に関する内外の文献研究を行うとともに、児童文化学の在り方について、また児童文化そのものの現状とあり方について考察する。

関連領域

## 保育マネジメント特殊研究

近年、保育や幼児教育の現場では、保育士や幼稚園教諭のキャリア向上、幼児の事故や保護者対応に関わる諸問題等、従来にはなかった課題が増えている。そこで、保育所や幼稚園等の管理者や経営者を主な対象として、保育現場における管理・経営についての考察を深めるとともに、諸問題に関わる事例分析を通して、博士レベルの保育のトップリーダーの力量向上を図る。

関連領域

## 教科内容学特殊研究

教科内容学は、「教科内容を教育実践との関連で研究する」学問である。すなわち、学問や諸科学等の研究成果の内容が子どもの認識と成長にどのように寄与するかという教育の観点からその内容や価値を捉え、教科内容を創出することを目的としている。そこで、本科目は、そのための概念や研究方法を理解するため、受講生の研究課題との関連で、文献購読やそれを踏まえた議論を展開し、教科内容学研究の方法を考究する。





SEITOKU

## 聖徳大学大学院通信教育課程 共学

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 聖徳大学5号館2階

TEL.047-365-1200 (直通)

URL <https://tk.seitoku-u.ac.jp/> E-mail [nyuugaku@wa.seitoku.ac.jp](mailto:nyuugaku@wa.seitoku.ac.jp)